

カンボジア学校建設プロジェクト

5 学校にいかせることができるようになり嬉しい!



右端
宮本さん

この世に生かされていること 宮本佐織 (キャンプボランティア)

私たちが滞在したのは、プノンペンから車で2時間ほどの小さな村だった。車が通ることすらめったに無い。移動はモトカ牛車、自転車牛車を引く牛は食料が十分にないためか、日本の牛と違い、少しやせている。スリムな牛はやけに美人に見えた。村一帯はのどかな風景が続く。のどかさの中で目を凝らしてみても、貧しさの顔を出さず。からからに干上がった田んぼ、崩れそうな屋根の家。この村は、乾季はかんばつ、雨季には洪水に悩まされる。収入源は農業だが、気候の影響で村人の収入はゼロに近い。

村の人々はそんな生活を決して恥じてはいない。ニワトリが鳴いたら起き、暗くならた寝る。食事の時間になれば食事を取る。水が無くなった川にくみに行く。仕事があれば友と語り合う。ただ生きている。生活している。数年前から内戦下にあったとは思えないほど、ゆとりとした日常生活の時間が流れている。あるキャンパーは「戦争の時も、村の人たちはこうして普通に生活していたのだらうな。生活していたら軍隊がやってきて戦争をはじめた」と

いう感じなのでしょうね」ともらした。戦いに巻き込まれるのは、戦場となった土地で普通に生活している人々。どんな戦争でも、それは変わらない気がする。

村の小学校には、約800人の子どもが通っている。木の葉でくみ上げた校舎一棟と、鉄筋平屋建ての校舎が一棟。一つの教室で100人ほどの子どもが勉強している。私たちは、この学校の敷地内に新校舎を建てる作業に加わった。川の砂を綱にのせ細かく砕く単純な作業。器々の中で作業に、気が遠くなる思いがした。作業をしていると、自然と村人がよってくる。日本で言う野次馬。日本人が珍しいのか、あきもせず作業の様子をじっと見ている。日がたつと、手伝ってくれる子どもや、大人も出てきた。村人と共に作業に関わる。どちらが上の立場でもなく、共に同じ作業を同じ目線で行ったことで、本当に交流をしたという気持ちになった。与えるのではなく、与えられるのではなく、共にやりそうという貴重な経験をした。

戦争も知らない、飢えることも知らない自分は、命が脅かされるほどの大きな危機に遭遇することもなく、ただこの世に生を受けて生きている。どこかに生きている理由、生きている意味を求めている。それと同様、ボランティアに参加しても、何かをしなければ意味がないと錯覚していた。しかし、彼らと共に生活し、同じように作業をするうち、何かをしたから意味があるのではなく、私たちがその地を訪れたことに意味があることに気が付いた。生きていることも同じ気がする。この世で役に立つ理由があるから生きているのではなく、この世に生かされていること事態に意味がある。村人とこの交流で大切なことに気が付いた。

インド地震救援プロジェクト

ルナバ村に新しい学校完成!

2001年1月26日に発生したインド西部地震は、死者約2万人、負傷者16万人以上に及んでいるほか、家屋倒壊数は100万戸以上に達するなど未曾有の規模の災害となりました。

LWS-India (Lutheran World Service India, 本部事務所、カルカッタ) は、地震発生5日後の1月31日に、震源から約1000kmの都市ガンディーナードに11名、6日後の2月2日に震源から約150kmの都市モルビに11名を派遣し、それぞれにベースキャンプを設置し、緊急支援活動を開始しました。

わかちあいプロジェクトは、3月1日から1ヶ月間、建設技術者の石川博之さん、土木技術者の藤田大さんと鈴木木邑さんの3名を現地へ派遣し、支援活動に参加すると共に、学校再建のための調査を行いました。遅れていた建築が昨年から開始されルナバ村で本年3月完成式が開かれました。



互属のなかで



完成した学校



開校式に集まったお母さんと赤ちゃん

わかちあいプロジェクト募金にご協力ください

2004年度から外務省の補助金制度が廃止されます。今までは皆様の募金に加えて、補助金をいただいていた事業をすませてきましたが、今年からコーヒー、紅茶の事業収入と募金のみで事業をすすめます。全体の事業規模が小さくなりますが、皆様に支えられて、自分達にできる範囲で支援して行きたいと思えます。また、インドネシア、タイのプロジェクトも経済的に自立できるように頑張っています。

- 難民支援
1992年に、わかちあいプロジェクトを開始してから継続しています。難民青年たちへの支援プログラムのため
- 自立支援
カンボジアの学校建設プロジェクト
毎年、1〜2校を建設してきましたが、1校当たりの資金、12.5万円の募金

が集まった時点で、建設するようにいたします。タイ山岳民支援プロジェクトショップをチェンマイに開き3年たちました。今年こそ赤字がでないように現地スタッフ10名で頑張る、山岳民少女を守るためのプロジェクトを開始します。

スタラ農村開発プロジェクト
コーヒー生産者組合の組織化と有機栽培の認証がとれるように準備しています。古着販売による奨学金基金が、100万円に近づいています。インドネシアでは利息が11%です。利息分11万円を20名のごどもたちに支援致します。

2004年の募金目的と目録額

- 難民支援 900万円
青年育成プログラム
古着などのコナチナ費用
- 自立支援 300万円
カンボジア学校建設
タイプロジェクト
インドネシアプロジェクト
- その他

募金目録額 1200万円

募金の送金先
郵便振替口座
わかちあいプロジェクト募金
00130-7-762258

お知らせ

- わかちあいプロジェクト例会
8月を除く毎月第3火曜日、午後7時より例会を開いています。歓迎いたします。どうぞご出席ください。
- 04年 第8回カンボジア・ワークキャンプ参加者募集中
1. 日程 3月8日(月)〜3月19日(金)
2. 募集人数 10名
3. 費用 18万円
◎この費用は国際航空運賃、訪問地での宿泊、食費、旅行保険などのプログラム費です。ただし、日本国内での交通費、パスポート取得費、空港税などは含まれません。
◎アンコールワットの見学を希望する場合は、実費2万円プラス。
- 4. 訪問地 カンボジアコンポンスプー省ワークキャンプの作業内容は、小学校のグラウンドの整備など、今まで建設した学校の整備を中心とした人と一緒にを行います。
- 5. 募集対象 18〜30歳 (未成年者の方は親の同意書が必要です) 健康に自信がある方。
※準備会は、原則的に出席して下さい。但し、遠隔地等事情のある方はお問い合わせください。
準備会 一回目 2月17日(火)午後7時
二回目 2月22日(火)午後7時

- 第12回 2004年度 古着支援要項
2004年も以下の要項に従って古着を集めます。ご協力をよろしくお願いたします。送り先と受け付け期間を開通できないようにお願いたします。衣料品以外のものは対象外です。御了解ください。
◎支援先: ルンダ、エリリア、インドネシアなど
◎古着の種類: 子供と大人の衣類 (夏冬ものすべて) 布種、ティーンズ、スカート、ワイシャツ、ジバン、背広、トレーナー、ジャー

- 団体行動の取れる方。
- 6. 締め切り 2月6日(金)
- 7. 応募方法
氏名 (パスポートの名前、ローマ字表記をしてください) 性別、職業、パスポートの有無、電話番号、メールアドレスなど記入の上、参加機軸を原稿用紙一枚に書いて申し込む。申し込みの申し込みも行う。
- 8. 申し込み、問い合わせ先
わかちあいプロジェクト
130-0022 東京都墨田区江東橋 5-3-1
Tel: 03-3634-7809 Fax: 03-3634-7808
Eメール: wpt@wakaichai.com
- 9. 現地協力団体
ルンダルネキ連帯カンボジア、プノンペン事務所、及びコンポンスプー事務所

- ◎古着の状態: 洗濯に出したもの、あるいは自分で洗濯してアイロンをかけたものにしてください。
- ◎古着の個数: ダンボール箱、4000個 (40フィートコンテナ4台)
- ◎送り先: 大田区浜浜島1-2-2 ヤマト (株) 内線電話: 03-3799-1820 わかちあいプロジェクト (現地への持ち込み可、ヤマトを使う必要なし)
- ◎受付期間: 2004年6月1日(火)〜6月12日(土) (この期間に到着するようにお送りください)
- ◎ダンボール箱の大き: 引越し用段ボール箱大のおおきさまで (縦・横・高さの合計が1.5mまで)
- ◎送料募金
ダンボール1箱あたり、1,500円 (古着の寄付だけは受け付けていません。送料カンパを条件として、荷物と一緒にカンパを送られますと、そのまま現地まで送られてまいります。ご面倒ですが郵便振替でご送ください)

現地の通関が難しくなりタンザニアには送れなくなりました。

飛行所 (本・日) わかちあいプロジェクト 130-0022 東京都墨田区江東橋5-3-1 電話: 03-3634-7809 FAX: 03-3634-7808
編集者 松本 郵便振替口座: わかちあいプロジェクト募金 00130-7-762258 (募金用)
わかちあいプロジェクト 00180-6-758331 (代金支払用)